

ANTON BRUCKNER

„Locus iste a Deo factus est“

この場所は神によって作られた

Allegro moderato



Lo - cus i - ste a De-o fac - tus est,

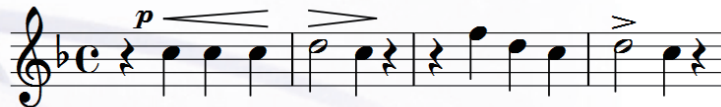
Locus iste a Deo factus est,
この場所は神によって作られた
inaestimabile sacramentum,
それは計り知れない秘跡である
irreprehensibilis est.
非の打ちどころ(間違いが)ない

Bruckner がオーストリア郊外、リンツの教会 (Votifkapelle) の新しい聖堂の献堂式の為に作曲した。簡素で慎ましい曲であるが、ハーモニーの豊かな響き合いの中に胸を打つ瞬間がある。特に神の奇跡は「非の打ちどころ(間違いが)ない」„irreprehensibilis“ という言葉に付けられた、半音階的ハーモニーの推移は見事である。無意識の内に潜んでいた形の無いものが次第に浮かび上がり、やがて調和したハーモニーに到達した時に、その言葉 („irreprehensibilis“) が輪郭を表す。全体を通じて穏やかな流れの中に立体的な奥行きと、響きの清潔感が感じられる。1869年の作品。

„Ave Maria“

アヴェ マリア (7声による合唱)

Andante



A - ve Ma - ri - a, gra - ti - a ple - na

Ave Maria, gratia plena,
幸あれマリアさま 恵みに満ちたかたよ
Dominus tecum.
主はあなたとともに(おられます)
Benedicta tu in mulieribus,
あなたは女の中で祝福されたかた
et benedictus fructus ventris tui, Jesus.
胎内の果実であるイエス様も祝福されています
Sancta Maria, Mater Dei,
聖なるマリアさま、神の御母
ora pro nobis peccatoribus
われら罪人のためにお祈り下さい
nunc et in hora mortis nostrae.
今も、われらの死の時も

Amen.
アーメン

Bruckner の合唱作品はハーモニーに特徴があり、彼のハーモニーに対する繊細な感覚や、その音色の効果的な使用に目を見張るものがある。この曲では、女声と男声の音質の違いで Maria のイメージを描いて行く。冒頭は女声合唱のみで、へ長調の3和声の基本形を微細に変化させながら進む。音色は明るく、まさに恩恵 („gratia“) と祝福 („Benedicta“) に満ちたハーモニーである。男声合唱に移ったところは、Maria がキリストを受胎したという神秘性を響きで表している。„Jesus“ の響きは、一度目は男声の深いまろやか響きで、二度目はテノールとアルトの音色によりだんだん輪郭がはっきりしてくる。そして遂に三回目全員が歌い、まばゆい光に包まれたイエスが出現する。1861年の作品。